



菅平に須坂高校の林がある!?

同窓会林伐採ツアー開催!

6月21日(火)の午前中、菅平の山の一角で同窓会林伐採ツアーが行われた。



プラスチック製で意外と軽い「くさび」

須坂高校には、菅平に同窓会林がある。この林は80年前の先輩方の手によって植えられた(同窓会林の詳細は下2段参照)。その木を100周年記念事業で行う図書館リノベーションの資材として使ったり、売却して行事の費用に活用したりするために昨年の11月半ばから伐採が行われている。

その伐採の様子を見学するため、100周年特別実行委員5人、新聞委員2人、先生4人、同窓会長の永田正幸さんは長野森林組合の方々と菅平まで行

令和4年
7月・特別号
新聞委員会



たくさんの木!

き、実際に林の中に足を踏み入れた。

このツアーで一番印象深かったのは、やはり木が倒れる瞬間だ。一本の木を伐る、という一見単純な作業に見えるが、伐採されるま

では様々な過程がある。切っているときの音を小さくするためのヘルメットやチェーンソーが当たっても大丈夫なズボンを着用し、まず木の周りを整備するところから始まる。全て安全に伐採するた

めだ。それから、重いチェーンソーで木を切っていく。途中で「くさび」というものを入れ、倒れやすくする作業もある。木が山の斜

面に沿って倒れるように方向を考えながら慎重にチェーンソーを操り、メキメキと音を立てながら倒れ、ドンという音を林中に響き渡らせて、一連の作業が終わる。このように、たくさんの方の過程を経て、伐り始めてからすぐに倒れるわけではなく一本の木が倒れる瞬間は歓声と拍手が起こった。実際に伐採作業をした松林さんは「操縦は慣れれば自分の手足のようであるので、よ」と声を弾ませた。

自分の仕事にやりがいを感じ、楽しめる姿を私も目指したいと思っ

た。また、プロセッサーという機械を使って木の皮を剥ぐ作業・木を一定の長さに伐る作業も見学した。機械化したのはここ10年くらいで、前までは人の手で測って伐っていたそう。林業は事故が起きやすいため積極的に機



木が倒れる瞬間



プロセッサーを使った切断作業

械を使っているそう

図書館のリノベーションで木を使うことは、100周年で同窓会林を使った記念になるだけでなく、植樹して循環させることで、次の100周年・200周年への私たちが残した道となるので、先輩方が植えて下さった同窓会林を守り、次の世代へつないでいくことが大切だと感じた。

伐採後は植樹予定だそう。興味のある人、今後の同窓会林の動きや図書館リノベーション、他の100周年記念事業について気になる人は、100周年特別実行委員会、室井先生、斎藤先生まで。(文責・青木・江澤)

歩き移動に山火事!?

同窓会林の背景

上記の通り、須坂

7時30分には宿舎を出て現地に赴いた。

あと1日で予定完

了という日の昼休み

に山火事を起こし

た。もう昼食どころ

ではなく、無我夢中

でシャツや木の枝で

芝生の火をはたいて

消火に走り、溝を掘

って延焼を防ぐ。や

り、国の情勢はどん

どん戦争に向かって

いった。そんな中、

国の工業躍進に伴う

木材の資源の重要性

が増したことによ

り、本校でも国策協

力の一環として19

41年に菅平の一角

を借り入れる契約を

結び、植林の運びと

なった。

1941年5月、

上の植樹を行なっ

た。雨天で作業がで

きない日が1日あっ

たので、毎日平均8

000本余りを植え

たことになる。

こうして今から約

80年前に、大先輩諸

氏が植えた同窓会林

が引き継がれてきた

というわけである。